

(前ページから続く)

ントで走らせる会の最近の活動を報告した後、検討していたLRT想定路線案や横浜駅東口へのアクセス・ターミナル(A・B・C案)を提案し、この3つの計画にLRTを導入することの可能性について、3人に質問しました。この提案に対して、池田氏は「関内を愛する会は従来から山下公園から赤レンガ倉庫を経て馬車道、伊勢佐木町モールへの路線を提案している」とした上で検討会の中でも地区内を回遊する交通手段としても、活性化するには最適なものだと主張していくと答えました。鈴木理事は、個人的な意見とした上で、「LRTは何より横浜のまちにマッチしているし、観光、まちづくり、活性化などの面から有効と考えている」と答えました。鈴木准教授は、「インナーハーバー構想

ではクルマに頼らないLRTを含めた公共交通や水上交通ネットワークを整備する計画だ」と答えました。松本氏は、「富山には伊勢佐木町の商店街の方々と一緒に視察した。横浜市は行政も車社会の呪縛から抜け出していないようだし、市民も意識を高める必要がある。LRTは観光や活性化に有効で、まずどこかに実現してさらにそこから広げていけばいい」とコメントしました。最後に、コーディネーターから今日の議論は入口であり、今後、委員の方々が計画の具体的な実施に取り組むことにエールを送るとともに、市民がこれらの計画に関心を持ち続けることが大事だとコメントしフォーラムを終了しました。(文責・清水康二)

## 「第4回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 東京」開かれる！

昨年末の12月5日、「第4回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 東京」が東京大学本郷キャンパスで開催されました。前回の横浜国大で開かれた第3回大会では、当会は地元の市民団体として、「横浜の公共交通活性化をめざす会」などと共に、企画運営に大きく関わりましたが、今回も主体的に参画しました。

この大会は持続可能な社会をめざし、まちづくりと地域公共交通について、一般市民や行政担当者、事業者、有識者などが一堂に会して、議論し考える場として開かれるもので、今回のテーマは、「地域連携で動き出す、みんなの交通まちづくり」でした。

今年も全国から約600名が集い、課題の共有化や意見交換が展開され、活発な交流が図られました。主なプログラムは、研究発表大会、ワークショップおよび全国フォーラムから成り、他にLRTデザインコンテストや世界のLRT/BRTの写真展示が行われました。

午前の研究発表大会は、交通やまちづくりに関するいくつかのキーワードを基に、64件の発表が6会場に分かれ実施され、横浜地区からも、「走らせる会」「めざす会」および「横浜カーフリーデー実行委員会」から日頃の活動報告などがありました。

午後のワークショップ(討論会)では企業と地域の2つの取組みについて語られ、地域の取組みではLRTなど新しい公共交通の導入をめざす都市(宇都宮、福井、堺、岡山、横浜)の市民団体代表が出席し、それぞれの地域における課題と現状の報告および意見交換がなされました。横浜からは当会副理事長の古川洋氏が出席し、行政の動向などについて報告を行いました。

### 森富山市長の講演とパネルディスカッション！

引き続き開催された全国フォーラムでは、富山市の森市長による基調講演と、パネルディスカッションが行われました。

富山ライトレールの成功と昨年未開業させた市内環状線(セントラム)で全国から注目されている森市長の講演は、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」をテーマとし、今までの取組みと今後の計画が具体的に紹介されましたが、以下その要旨です。

『富山市は、自動車交通に大きく依存してきた結果、バス利用者は急減し公共交通の衰退が著しく、クルマを利用できない市民にとって極めて生活しにくいまちとなっていました。また都市構造が拡散し、ごみ収集や除雪などの行政コストの増大をもたらし、更には中心市街地の空洞化が進み、まち全体の活力低下が目立つように



なった。そこで今後の人口減少と高齢化に備え、コンパクトなまちづくりをめざし、公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、文化等の機能を集約させることにした。その手段として鉄軌道の活用を考え、富山ライトレールや市内線環状化事業を実施。人口が市域全体で減少している中、ライトレール沿線では増加している。また従来ほとんど外出しなかったお年寄りの利用が目立ち、シニア層の行動様式が変わった。他にもシニア向けのバス利用促進策を実施し、コミュニティサイクルの導入なども計画している。これからもコンパクトで機能的なまちづくりをめざして行く。』

市長の話を通じて首長の熱意とリーダーシップの下に、行政が市民に明確なメッセージを伝えることの大切さが伝わってきました。また話の中で、お年寄りが皆ニコニコしながらライトレールに乗っている、との言葉が印象的でした。

基調講演の後のパネルディスカッションでは、宇都宮市の佐藤市長、東京都豊島区の高野区長が登壇し、それぞれのLRT推進構想が披露されました。さらにコーディネーターの原田昇東京大学院教授の進行で、作家・評論家の神津カンナ氏、作家の三戸祐子氏も加わり、LRTを導入することの意義や議論に楽しいLRT談義も行なわれ大会を終了しました。

この全国大会の場で様々な立場の人々が集まり、知見の共有や課題克服のための議論を展開することは大変意義のあることですが、今回は今年11月27日に岡山で開催される予定です。

(文責・小田部明人)

### ●林 文子 横浜市長に要望書を提出！

走らせる会は昨年4月22日に当時の中田宏横浜市長とカレーランチミーティングを行い、中心部へのLRT導入を提案しました。ところが、中田市長は7月に突然の辞任を表明し、8月30日に市長選挙が行なわれることになり、会として出馬した3人の候補者に「市長に当選したらLRT導入を推進しますか」という公開質問状を送りました。中西健治候補からは回答がありませんでしたが、林文子候補と岡田政彦候補からは「推進する」という回答が送られてきました。

### 林 市長からの回答が届く！

横浜市長に当選した林 文子市長宛てに、12月21日、会として面談を要望するとともに、LRT推進にどう取り組むについて回答を求める要望書を提出したところ、10年1月6日に市長からの回答が届きました。市長からの回答は次の通りです。

『横浜でのLRT整備については、採算性や導入空間などの事業性を確保するとともに、周辺の土地利用状況や本市の厳しい財政状況を踏まえる必要があり、整備には解決すべき課題が数多くあると認識しております。また、LRTの整備自体を目的とするのではなく、地域にふさわしい交通手段や対策について選択肢を検討していく必要がありますので、まずは、担当部署との話し合いを通じて、課題や可能性等について共有していただきたいと考えております。』

選挙の際の公開質問状の回答と比べると今回の回答の内容の違いに愕然としますが、これは真に林市長の考えに基づいて回答されたのか疑念を感じざるを得ません。私たちとしてはこの回答をふまえ、担当部署との話し合いを早期に申し入れすることを考えています。(文責・清水康二)

### ●横浜駅東口踏査会と東口アクセスルート & ターミナル案検討！

昨年4月、私たちは中田前横浜市長とのカレーランチミーティングの場でベイエリアへのLRT導入を提案しました。その後も「横浜の公共交通活性化をめざす会企画チーム」と共同で、より利便性が高く、多数の利用客が見込める、横浜駅東口からのルートの可能性について研究を続けています。

その一環として、昨年9月に現地踏査会を実施し、走行空間や経路の確認を行い、導入の可能性を探りました。当日は好天に恵まれ、18名のメンバーが横浜駅東口のYCATに集合し、そこを起点として「みなとみらい地区」を経由し山下公園までの約3.5kmの区間を歩きました。

「みなとみらい」から山下公園、中華街にかけては観光スポットが点在しており、来街者やお年寄りが気軽に利用できる交通手段が求められます。現在このエリアには周遊バス「赤いくつ号」が走っており、観光客には人気ですが、走行区間が明快で、より多くの旅客を運ぶことが可能なLRTのニーズは高いと思われます。

その後、企画チームで横浜駅東口へのアクセスルートとターミナル設置場所について、現地調査と検討を重ね3つの案に絞り込み、1月23日のLRTフォーラムで初めて発表しました。今後、この案を含めて詳細な検証や検討が必要ですが、効果的で魅力のあるルートとして提案していく予定です。

### ●横浜の公共交通活性化をめざす会 総会 開催！

1月23日、横浜市技能文化会館で「横浜の公共交通活性化をめざす会」の第3回定期総会が開かれ、昨年度の活動報告、役員選任の後、新たな活動方針・計画が審議され原案通り承認されました。

今年度の基本方針として、従来からのLRTを軸とした新しい公共交通システムの実現に向けた取り組みに加え、市内の交通不便地域の解消、利便性向上に向けた活動を新たに行うことになりました。

取組みの一つとして、「まちづくり」「環境」「福祉」に関わる団体との関係強化を積極的に図ることとしています。また交通不便地域解消の取組みは対象地域の状況把握と対応策の検討を行い、更には会として今後、国の「交通基本法」制定の動きを注視していくことになりました。

### 会員プロフィール (各号で理事・会員の中から紹介します)

岩本 欣也さん



理事

南区在住。横浜カーフリーデー実行委員。自動車メーカーの車両研究所に15年勤務後、独立してIT関連企業の経営を行っている。大学院で都市工学を学んでいたときに、担当教授から「モータリゼーションが起こった時に路面電車を廃止したのは最大の失策、路面電車には自動車の整流作用があり、今、東京、横浜に路面電車が残っていたら、現在と同じ台数の自動車が走っていてもここまで渋滞は酷くない。」という言葉に感銘を受け、自動車乗りのためにもLRTは必要と会の活動に参加する。

藤村建一郎さん



理事

東京都出身。現在練馬区在住。都電研研究会中心メンバー。10数年前、香港を旅行したときに、現地の二階建てトラムやLRTをたまたま利用し、路面電車の素晴らしさ、楽しさを知った。それ以前から環境問題や地域振興については、個別に探求していたが、「路面公共交通」という媒体でそれらが包括できるのではないかと現地で気づき、以降は横浜・東京といった日本の大都市で、トラムを活かしたまちづくりができないかと活動を続けている。

塚平 一成さん



理事

磯子区在住。私が事務局を担当していた佐藤謙一郎氏の環境NPO「洗心洞大学」にて2003年春にLRTの勉強会が開催され、その事をきっかけとして活動に参加させて頂く事になりました。また、横浜の文化発信のため演劇活動等にも取り組んでいます。横浜カーフリーデーの活動なども通じ、横浜の環境を考え街の魅力をより高めてゆく、そんなまちづくりを進めてゆくとともにLRTをはじめとした公共交通の活性化のため、今後も努めて参ります。